

のアルバム

▼4月8日 東消防署



これからも地域防災のために

野洲市消防団の皆さんが、日本消防協会から竿頭綬を授与されました。

竿頭綬は、防災に関する活動の成績が優秀な団体に授与されるもので、平成16年の合併以降、日夜たゆまぬ努力と、献身的な活動で地域の安心・安全に貢献してきたことが認められました。

また、全国消防団員意見発表会で福永和馬さんが優秀賞を受賞されました。福永さんは、学生時代から消防団に入団し、現在も活動されており、長年に渡る活動と防災に対する思いが評価されました。



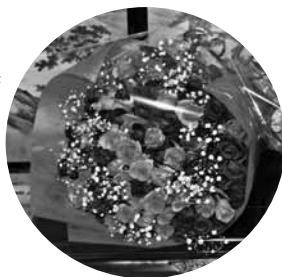
100歳おめでとう②

100歳の誕生日を迎えた小面すみさん（野田）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正6年3月31日生まれのすみさんは、80歳半ばまで早朝から豆腐の製造と販売を続け、現役引退後も毎日、畑仕事を行うなど元気いっぱいでした。

この日は、ご家族と親戚の皆さんが集まり、お祝いに100本のバラなどをプレゼントされました。

いつまでもお元気で。



▼4月6日 野田



▼3月14日 市役所



日本を背負って挑みます！

アイスホッケー世界大会出場報告のため、谷本鼓童さん（小篠原）が、市役所を訪問されました。

谷本さんはカナダのケベック州で開催された世界大会にU-13の日本代表として参加し、120チームが争う中、見事ベスト8に輝かれました。

市長から大会での感想を尋ねられると「レベルの高い選手と対戦できて刺激を受けた。」と語ってくれました。

現在は滋賀ジュニアアイスホッケークラブに所属し、毎週2回、県立アイスアリーナで練習に励んでいます。

これからも世界での活躍を期待します。

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(152)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

「みのり」 杉田静山 竹工芸作品

すぎ たじょうざん
杉田静山さんは、野洲市在住の滋賀県無形文化財保持者で、日本を代表する竹工芸作家の一人です。13歳の時、隣家の青年が竹籠を作っているのを見て興味を持ち、見よう見まねで作って見たのが始まりでした。やがて作品づくりに取り組むようになり、独学でその技を極めていきます。

かつては、野洲川の堤防には竹が生い茂り、材料となるよい竹を探しに行ったといいます。野洲川改修後は竹やぶが少なくなり、竹屋から購入しています。野洲市には、竹生、大篠原、小篠原といった竹にちなんだ地名があります。昔は竹やぶが広がり、その歴史を伝えているのでしょう。

ある時、大篠原に住む友人から、近くで竹やぶを伐っていて、よい竹があると連絡を受けます。ここで譲り受けた竹で編んだ作品は、「みのり」と名づけられました。この作品は六つ目編みの籠で、杉田さんの繊細で優美な作風をよく表しています。竹ひごの巾を細くして薄く削ると、六つ目編みの籠は様々な造形に作りあげることができます。これは日本古来の編み方で、「簾越しにものを見る」というように、透かしの美しさを生かしてやわらかな曲線を描き出しています。

博物館では、作者より寄贈を受けた作品16点を展示しています。竹工芸の技と美の世界をぜひご鑑賞ください。

(行俊 勉)



「みのり」2005年 杉田静山作・寄贈

■特集陳列「杉田静山 竹工芸作品」5月28日(日)まで

休館日：月曜日 ※市民は入館無料



100歳おめでとう①

100歳の誕生日を中小路タキさん（比留田）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正6年3月19日生まれの方タキさんは、日頃ラジオの歌謡曲のど自慢を聞いて楽しんでおられます。

この日は、お祝いに小孫さんが遠方から駆けつけるなど、ご家族全員で祝福されていました。

いつまでもお元気で。

▼3月22日 比留田



地元農産物を食べて世界へ！

JA おうみ富士青壮年会「絆の会」が野洲・守山産の農産物を障がい者車いすバドミントン日本代表の福家育美選手（守山市）へ贈呈しました。

これは、昨年6月に両者が支援協定を締結し、「食」と「農」を通じて互いに協力し合い、障がい者バドミントンと地域農業の発展のため、「絆」を深め合うことが目的です。

福家さんの2020年東京パラリンピックへの出場と地元農産物の普及活動を期待しています！

▼3月17日 市役所

